

講義名	日本語C（書く）			授業形態	
担当教員	野村 由香里	開講期・曜日・時間	前期 火曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

大学ではレポートの作成、また、卒業論文の執筆が必須である。そこで、この授業では論述文の書き方を基礎から学習する。具体的には、話し言葉と書き言葉の違い、論述文に合う文体、文章の要約、また、文章全体の構成、参考文献の書き方等、順を追って学習していく。

到達目標

留学生が大学でレポートや論文を書く際に必要な基礎知識を身に付けられるようになる。

提出課題

授業中に指示

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業中に個別に指示

評価の基準

授業中の課題点（60％） 中間・期末テスト（40％）

履修にあたっての注意・助言他

1. 出欠確認は毎回点呼を行う
2. 5回以上欠席した場合は期末試験を受けることができない
3. 授業が始まって15分以内の入室は遅刻とみなし、遅刻3回で1回の欠席となる
4. 15分以上の遅刻は欠席とみなす（授業は受けてもよい）
5. 授業時には辞書を携帯すること

教科書

.使用しない。

参考図書

.小論文への12のステップ。 友松悦子 スリーエーネットワーク 1600 9784883194889

その他

『大学で学ぶための日本語ライティング』 佐々木理枝他著 The Japan Times 2006 ISBN4-7890-1221-2
『留学生のための論理的な文章の書き方』 二通信子著 スリーエーネットワーク 2008 ISBN978-4-88319-257-1 C0081

授業計画

第1回目 授業内容や評価などの説明/表記の仕方1
予習内容：シラバスをよく読んで、この授業でどんなことを学び、どんなことができるようになるかを熟知しておく。（60分）
復習内容：授業中に学んだ「表記の仕方」に関する項目を見直し確認するとともに、実際に文章を書く中で応用練習を行う。（180分）

第2回目 表記の仕方2
予習内容：配布された資料に目を通し、どんなことを学習するのか、また、未知の語彙や表現がないか、確認し調べておく。（120分）
復習内容：授業中に学んだ「表記の仕方」に関する項目を見直し確認するとともに、実際に文章を書く中で記号などを使い応用練習を行う。（120分）

第3回目 文体
予習内容：配布された資料に目を通し、どんなことを学習するのか、また、未知の語彙や表現がないか、確認し調べておく。（120分）
復習内容：授業中に学んだ「文体」に関する項目を見直し確認するとともに、他の文章も読みだり書いてみる。（120分）

第4回目 話し言葉と書き言葉
予習内容：配布された資料に目を通し、どんなことを学習するのか、また、未知の語彙や表現がないか、確認し調べておく。（120分）
復習内容：授業中に学んだ「話し言葉と書き言葉の違い」をよく見直し確認するとともに、他の文章も読みだり書いてみる。（120分）

第5回目 小論文によく使われる表現
予習内容：配布された資料に目を通し、どんなことを学習するのか、また、未知の語彙や表現がないか、確認し調べておく。（120分）
復習内容：授業中に学んだ「小論文」によく使われる表現、等をよく見直し確認するとともに、他の小論文も読んでみる。（120分）

第6回目 段落
予習内容：配布された資料に目を通し、どんなことを学習するのか、また、未知の語彙や表現がないか、確認し調べておく。（120分）
復習内容：授業中に学んだ「段落」という項目に関し、見直し確認するとともに、自分で段落を考えた文章を書いてみる。（120分）

第7回目 要約文を書く1
予習内容：配布された資料に目を通し、どんなことを学習するのか、また、未知の語彙や表現がないか、確認し調べておく。（120分）
復習内容：授業中に学んだ「要約文」の項目を見直し確認するとともに、自分が読んだ他の文章を要約してみる。（120分）

第8回目 要約文を書く2
予習内容：配布された資料に目を通し、どんなことを学習するのか、また、未知の語彙や表現がないか、確認し調べておく。（120分）
復習内容：授業中に学んだ「要約文」の項目を見直し確認するとともに、自分が読んだ他の文章を要約してみる。（120分）

第9回目 中間理解度試験の実施及びその解説
予習内容：中間で学習した項目をよく復習しておく。（180分）
復習内容：中間試験を振り返り、よく見直ししておく。（60分）

第10回目 意見文を書く1
予習内容：配布された資料に目を通し、どんなことを学習するのか、また、未知の語彙や表現がないか、確認し調べておく。（120分）
復習内容：授業中に学んだ「意見文の書き方」を見直し確認するとともに、他のテーマで意見文を書く。（120分）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の修得は流通科学大学の定めるディプロマポリシー「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の育成に關与している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考